

日刊 磐城時報

編輯 石城郡平町 印刷 石城郡平町 發行 石城郡平町 電話 一四四

南町裏道路に 水道布設を急ぐ

本年度中には完成 市制施行を急ぐ平町

平町が單獨市制施行を計劃する各町村統計主任會は四日午前十時南町裏幹線道路は元郡役所及時から石城郡役所に開き各小比事務署附近を中心に續々新市學校統計主任會も加へて昨年十月街を形成され不景氣を知らぬ進二月改正になつた學事統計主任會の進展を見せしめてゐるが、此の膨脹を見た

線路改修工事

平町に於ける宿屋營業者は四十餘に達する時は警察署に届名の多きに達してゐるが、最近け出でその承認を得ねばならぬ營業者の風紀著るしく類廢し宿の平氣で時計や羽織等を受取る泊人届に情實を知り乍ら偽名をるものあり、平署では徹底的に届出づる者あり或は全届出を取締るため過日來調査中であつ

規則を守らぬ 宿屋を取締る

槍玉に上つた三名

平町に於ける宿屋營業者は四十餘に達する時は警察署に届名の多きに達してゐるが、最近け出でその承認を得ねばならぬ營業者の風紀著るしく類廢し宿の平氣で時計や羽織等を受取る泊人届に情實を知り乍ら偽名をるものあり、平署では徹底的に届出づる者あり或は全届出を取締るため過日來調査中であつ

統計主任會

石城郡内 宿泊人が宿料を持たぬ場合所持 桐谷文平、渡邊則成、大森勇

春蘭取引準備

有限責任石城郡販賣利用組合で 六月月中旬から四倉町公設蘭市場に於て春蘭取引を行ふ等今年は一萬五千貫以上の取引を豫想し目下準備中である。

四倉獵友會

四倉獵友會 四倉獵友會臨時總會は此程四倉警察署に開き規約改正後評議員に宮澤光頼氏を推し散會した。

土藏の中の米

知らぬ間にゴキと變る

驚いて警察に届け出づ

飯野村大字上高久農田村収入技師出張する事となり三日午前飯山宿治方で昨年中小作米十時同地に到着實地調査に着手して玄米を取上げ倉庫に入れておいたが三日そのうち五俵だけを出して平町月見町根本米店に賣却した處五俵全部塵に詰替りてあつた事判明驚いて平署に届け出たが、やり方が巧妙で永山家に出入する者の仕業らし

御輿を購入

大浦村字 上仁井田青年團では同村諏訪神社の御輿を購入す可社司新田瀧松、團員鈴木與平吉、箱崎米治、箱崎八平外數氏奔走中であつたが、京都から重量八十貫の御輿を三千五百圓で購入す可注文の處、三日四倉驛に到着したので部落、午後三時半盛大な奉納式を行つた。

諏訪神社祭

来る五月八日は舊四月八日で四倉町諏訪神社の祭典であるが、今年に諒

平局で一ヶ年に 十萬圓の純利益

昨年度の收支決算

平郵便局、於ける昨年四月一日十圓、五十圓が大部分を占めてから本年三月三十一日迄の總收が、一方平郵便局一ヶ年の入金は二十九萬八千六百八十六圓六十二錢五厘でその主なるも諸費まで加へ八萬二千六百九十圓でそれには仙臺通信局から送る、用紙、電話機等約十萬圓を差引ても約十萬圓の利益が平局から産み出さるゝわけである

爲替と貯金

平郵便局に於ける四月中の郵便貯金は

入金	四九一一口
口數	八六八四圓七三錢
金額	一三三二二口
口數	五三九八八圓一〇八厘
金額	五三九八八圓一〇八厘

觀世流素談會

平町 在住觀世流愛好者は先年來觀世俱樂部を組織し毎月一回東京より鳥越一氏を招聘し熱心研究を續けて來たが、今回更に觀世流研究會を組織し一月一回例會を開き、事なりその第一回は四日午後四時より平陽女學校に於て左記順序により素談會を催す。

花時の平拾得物

幾日の間數萬の人々を毎日樹下へ呼び集めて偉大さを誇つた平町ヶ岡公園の櫻も奇麗に散りし切つて飾り立てられた雪洞

桑樹凍害注意

(一) 平町農會(寄)
一、永久的豫防方法
イ、從來の凍害に於て被害の多い處は春蠶飼育を廢止するか又は制限して霜害に安全な夏秋蠶の飼育を行ひ桑園を夏秋蠶専用桑園に改設する事
ロ、春蠶用桑園は比較的被害少なき地域を選定して設置し品種及び仕立方を改善する事
ハ、詳細は本縣養蠶同業組合聯合會の宣傳する方法による事
二、應急の豫防方法
イ、完全なる豫防方法は多額の經費を要するから收支償はず、輕微な霜害に對し被害輕減の方法としては左の二法あり
個人的豫防法として華氏寒暖計三十二度以下に降下せざる以前に桑園の上に棚を作り藁等を以て之を蔽ひ其の中に松、杉等の生葉、鋸屑粉糠等の煙を焚き、共同的豫防法として焚き火の個所に乾燥せる糠糠三升位宛を盛り其の中に点火せる炭團を入れ煙を出す事

通學女兒斃死

石城郡内郷村大字宮炭礦坑夫亮佐四女阿部キミ(七七)は去月二十七日午後二時頃學校から歸宅の際同村高坂地内の專用線路を横切らんとして過つて胴體を真つ二つにひかれ即死した。

三園會和歌集

題「旅中見花」(一)
林 光福大人選
旅ころもしらぬ人ともふりはへてしたしみ深く花を見か
な
地 佐藤政記
ふるさとの春いかならんかさねこし旅寝の宿の花は咲きけ
高羽義矩

人の
時の間に花のよみもまさかりもらさへ見たる汽車の旅かな
秋月胤徳

秀逸
花さかり霞が關をすかかてにこころをこめて見る旅路かな
林 光卓

秀逸
名所の櫻をながめつゝつたひちの日記に花やそへまし
佐藤政記

秀逸
ゆく汽車のこまより春の旅哉
佐藤政記

秀逸
花にいねはな宿の春の旅衣はるゝ心そのまじかりけり
石山柳子

秀逸
こころゆく旅路なりけり散りもせず咲きも残らぬ花を眺め
佐野英常

映畫界

義に鳴る虎徹
(五日から平上映)
勤王、佐幕に分れた幕末の頃熊本の浪士菊池源之助は主君の上から祇園藝妓千代香と共に鳴いた。佐幕黨新撰組の猛者芹澤鴨は菊池を幾度も襲つたが失敗を繰り返した。新撰組の隊長近藤勇は勢力の反威から芹澤を心憎く思つてゐる。二條寺町筋近江屋の手代庄之助は同じ祇園の菊池に血道を上げてゐたが、男が落目になつた事を知つて彼れを裏切つた。菊池は其の實芹澤鴨の愛妓だつた。庄之助は菊池と芹澤に痛罵され、絶望のどん底に陥り死の道を選んだが近藤勇に救はれた。近藤と芹澤の間には益々深い溝が掘られた。千代香には盲目の妹絹江があつた。其の昔彼女が堅氣な娘の頃伏見町の熊宅に妹と共に身を寄せてゐた事があつたが、熊は一筋縄ではいかぬ事。

悪婆だつたので何か喰物にされた、彼女の父である山崎新左衛門は同じく新撰組の武士だつたが、佐幕思想に凝固した彼は、娘も忘れ家も忘れて佐幕の東奔西走した。一徹者の山崎は隊長近藤の忠言も聞かず菊池を襲ひ反つてその刃に倒れた。(つづ)

御期待の名畫公開
プロケラム
ボケット連載小説
時代小説
堀田金屋、藤野秀夫、八雲恵美子共演
東京日々新聞連載好評
原案菊池寛
陸の人魚
全十巻
梅村蓉子、砂田駒子、山内光主演
大日活會社特作雄篇
義に鳴る虎徹
全八巻
劍人何部五郎、尾上多見太郎、櫻木梅子
當ル五日ヨリ上映

平
編輯日記
(四日) 馬 村
常盤社長川崎君 數日來の風邪もカラリと癒つて三日茨城縣高萩に出張中の巖谷小波氏を訪ひ即日歸平。

驚いた!!!
こうまで安いとは
加納活版所の印刷物!!

警新田村君 新調の洋服、之亦斬らしいキクタイをつけたのでカララの古いのが殊に目につく。

民友佐藤君 令聞の慶事何時とも知らず、氣が氣でないとの事。

滋強第一
スポンジ
婦人病の血の道
美奈として
強壯の効
著大
滋強第一
スポンジ
本舖 檜尾長命堂
各支店 金沢 富山 石川 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 岡山 広島 徳島 高松 愛媛 福岡 熊本 鹿児島 那覇
圖五用徳・圖貳・圖壹價定
店理代
局藥邊野山
角目丁五町平

家庭になくならぬもの
寒暖計 體温計 各種
イマツ蠅取粉
西村屋藥局
度量衡指定販賣人 西村屋藥局
電話 三三番

春の洋服は
優美・高尚・廉價
なかや洋服店
平町二丁目(電話二〇三番)

花は櫻木
イワキ
美味で評判のイワキ食堂
平町縣社通り
電話四六〇番

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「栗守酒」
朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は睡眠の助力
栗守酒特約店 大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話六二四)

靴とかばん
福山靴店
御注文は特に勉強
既成品も豊富にあります
平町搔猫小路(役場前)

金印半天専門
優秀品の証明
草野染工場
福島縣平町
山崎合會社
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五番
上野車坂四三三
東京支店
電話下谷五七二三番
振替東京六八三二三番

油と味噌
神活
健腦、強精、美血、新藥
進んで頭腦明晰、元氣旺盛、精力絶倫を望む人は「神活」に依つて満足せらるべし
本舖 株式會社松田博愛堂
代理店 平町一丁目 大平屋藥店
電話六四二番